

解答例または出題意図

設問 I

【問 1】

教職大学院では、理論と実践の往還を重視している。本問は、近年重視されている探究的な学びの基盤となる基本的な理論モデルについての理解度を問うものである。例えば、「プロジェクト基盤学習」では、6つの原理に基づく理論がある。①駆動的問い；②学習パフォーマンスの設定；③真正な探究への参加；④協働；⑤テクノロジー支援；⑥成果物（アーティファクト）の作成である。①では、単元を通じた駆動的問いにより未来社会の課題に長期的に取り組む。②では、生徒の資質・能力の指標を作成し、それに照らして学習の進歩を評価する。③では、本物の学術的活動に取り組む。④では、様々な価値観やアイデアを有する他者と協働する。⑤では、独力で可能なレベルを越えたパフォーマンスを発揮できるテクノロジーを用いる。⑥では、探究の成果を実装したり行動に移したりする。これは一つの例にすぎず、解答者は何かの理論とその基本原理を挙げるのが、正答の条件である。

【問 2】

一例として、全米科学財団とミシガン州立大学が開発したミドルスクールの IQWST(Investigating and Questioning our World through Science and Technology)「科学とテクノロジーにより私たちの世界について調べ、問う」の7学年「化学入門」を例に挙げることができる。この単元では、①駆動的問いとして、「ある物資から別の物質をつくるにはどうしたらよいか」を設定し、「脂肪から石鹼をつくる」ことをプロジェクトのテーマとする。②学習パフォーマンスとしては、物質の性質（溶解度、融点、密度）、化学反応と質量の保存等、核となる科学的概念の発達状況を設定する。③真正な探究への参加に関しては、石鹼は脂肪を落とすが、石鹼自体は脂肪から作られているという不思議な事実の仕組みを、物質の諸性質の比較、混合物と化学反応の相違といった化学の見方から仮説を立て、実験、データ収集、結果の解釈、モデルを構築などの考え方を働かせる。④異なるアイデアをもつ他者と意見交換を通して新しい知識を共有する。⑤種々のデジタル機器を用いて脂肪と石鹼を定性的・定量的に比較する。⑥成果物として、実際に石鹼をつくり、他の生徒の石鹼と比較し、よりよい石鹼をつくろうとする。これは、プロジェクト基盤学習での化学での一例であるが、どの学校段階のどのような内容でも構わないが、基盤となる理論モデルの特徴を踏まえた探究的な学びを具体的に例示していることが、正答の条件である。

解答例または出題意図

設問Ⅱ

【問1】

問1では、表の読み取りとともに、2023年4月に施行された「こども基本法」にも取り入れられている「子どもの権利条約」に示されている4つの基本的な考え方（原則）についての理解を確認するものである。4つの原則とは、「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に対する権利」「子どもの意見の尊重」である。このことを踏まえ表を読み取ることができることが望ましい。

例えば、4つの原則に含まれる「子どもは自分に関することについて、自由に意見をいうことができ、おとなはそれを尊重する」や「子どもはどんな理由でも差別されない」は11%を超える回答率となっていることや、「子どもに関することについては、大人はその子どもにとって最も良いことを優先する」も10%を超える結果となっている。このことから、子どもたちの認識においては、4つの原則として挙げられている「子どもの権利」が十分守られていない可能性が示唆されており、このことが論じられることが望ましい。

【問2】

問2では、学校において、子どもの意見がどのように扱われているか、またそれゆえにどのような対応をすることが今後の学校に期待されるのかについて、表2を根拠としながら自らの言葉で考察することを求めている。

特に①では、表2より、親に比べると先生が子どもの意見を「とても大事に扱ってくれる」と回答した割合が相対的に低いことが読み取れる（親：33.8%、先生：14.1%）。また、先生について、「どちらとも言えない」「大事に扱ってくれない」「まったく大事に扱ってくれない」を合計した結果が3割を超えていることから、授業や特別活動、生徒指導等の様々な場面において、必ずしも子どもの意見が大事に扱われているとは言えない可能性があること等について、課題として記述することが望ましい。

②では、上述の①の記述を踏まえつつ、学校現場における対応について自らの考えを記述することを求めている。その際、近年の学校改革で実践されている校則見直しの動きや制服の選択など、子どもの意見を聴き、反映させる実践事例を挙げていてもよいが、これらに留まらない実践案について自らの考えを記述することができると望ましい。